



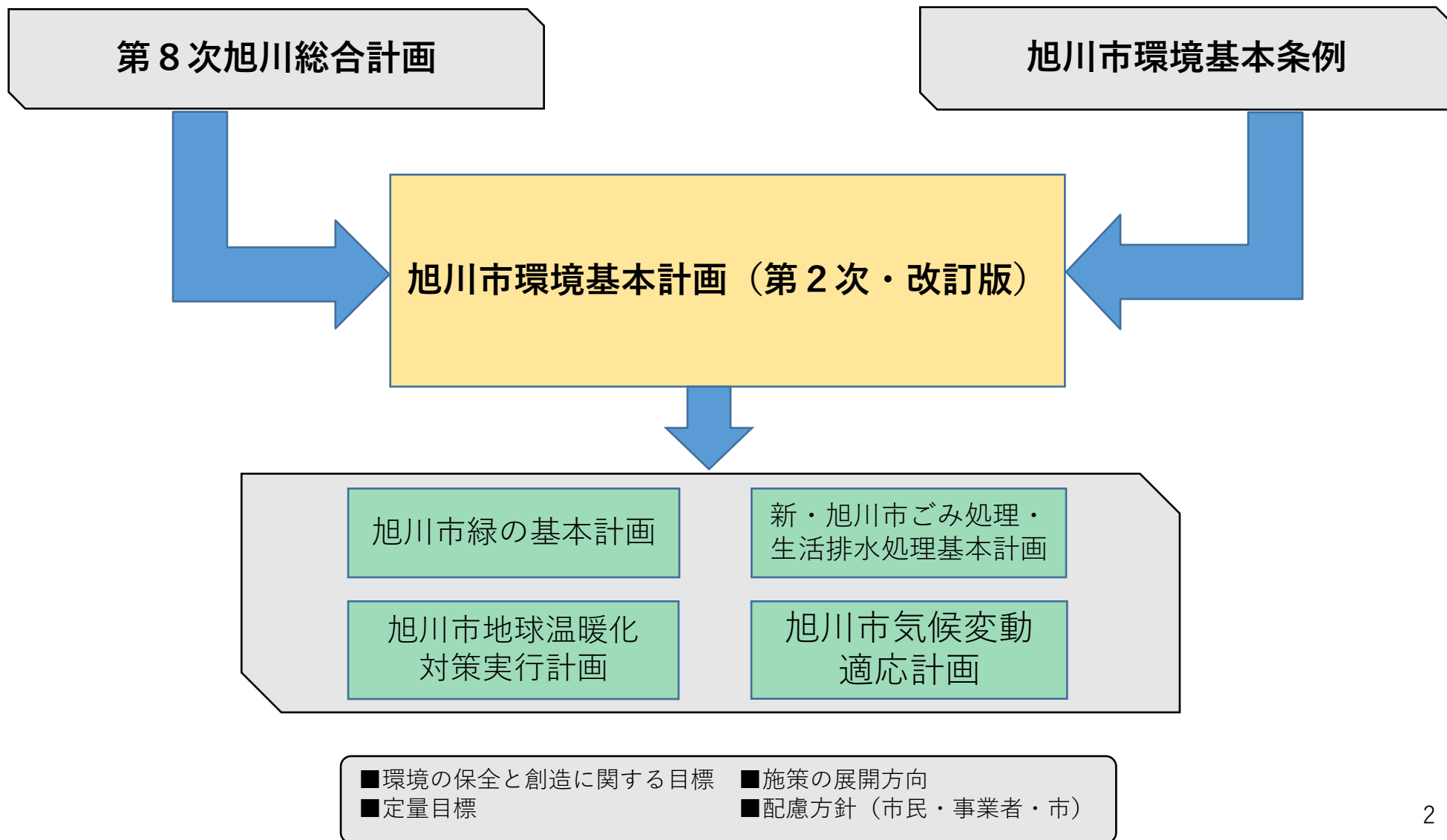
令和 7 年度 第2回 環境審議会

(令和 8 年度事業について)

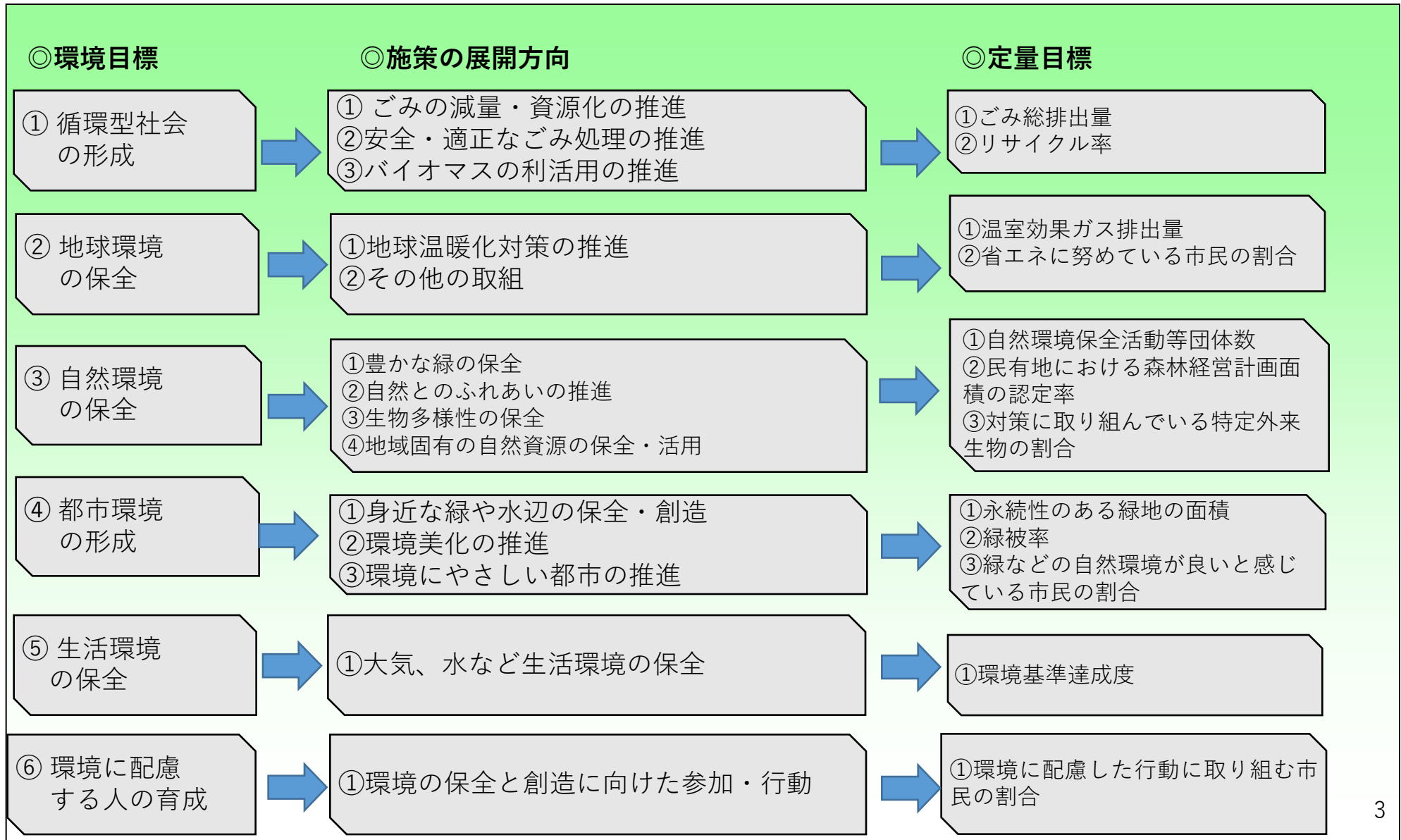
- 令和7年11月25日
- 旭川市 環境部

ASAHIKAWA CITY

環境基本計画について（位置付け）



環境基本計画について（施策体系）



定量目標に対する進捗状況（環境部所管事業該当のみ）



	基準値	R1 (実績)	第1期目標 値 (R1)	R4 (実績)	第2期目標値 (R5)	R5 (実績)	R6 (実績)	最終目標値 (R9)
ごみ総排出量	118,548 t (H26)	116,108 t	112,800 t	111,187 t	109,000 t	106,938 t	105,160 t	100,000 t
リサイクル率	23.2% (H26)	21.3%	25%	20.8%	25%	20.4%	19.9%	25%
温室効果ガス 排出量	3,489千 t - CO ₂ (H25)	3,099千 t - CO ₂	—	2,673千 t -CO ₂	2,376千 t - CO ₂	—	—	2,145千 t - CO ₂
省エネに努め ている市民の 割合	67.5% (H27)	59.8%	70%	—	70%	61.7%	—	70%
自然環境保全 活動等団体数	26団体 (H26)	26団体	28団体	26団体	30団体	31団体	31団体	32団体
対策に取り組 んでいる特定 外来生物の割 合	80% (H26)	80%	100%	60%	100%	67%	67%	100%
緑などの自然 環境が良いと 感じている市 民の割合	59% (H27)	57.9%	62%	—	65.5%	59.4%	—	69%
環境基準達成 度	11/14項目 (H26)	13/14 項目	14/14 項目	13/14 項目	14/14 項目	13/14 項目	13/14 項目	14/14 項目
環境に配慮し た行動に取り 組む市民の割 合	86% (H27)	82.1%	86%	—	86%	80.6%	—	86%

環境目標①循環型社会の形成【バイオマスの利活用の推進】



【今年度の取組状況】 ※各種実績は10月末時点

- 本市の緑豊かな森林資源を生かした木質系のバイオマス利活用の推進
 - ・旭川産の木材を活用したペレットのサプライチェーンの検討
 - ・廃棄物処分場における木質バイオマス燃料の製造
- バイオマス利用に関する普及啓発の推進
 - ・木質バイオマスストーブ導入促進事業補助金 交付決定 13件



【次年度の取組の方向性】

- 本市の緑豊かな森林資源を生かした木質系のバイオマス利活用の推進
(今年度の取組継続)
 - ・旭川産の木材を活用したペレットのサプライチェーンの検討【予算なし】
- バイオマス利用に関する普及啓発の推進
(今年度の取組継続)
 - ・木質バイオマスストーブ導入促進事業補助金【予算：6,000千円】



【今年度の取組状況】 ※各種実績は10月末時点

- 地球温暖化対策に向けた実行計画の策定と実践
- ゼロカーボン実現への意識改革・行動変容
- 省エネルギーの徹底
- 再生可能エネルギーの導入促進 など

・地域エネルギー設備等導入促進事業補助金	交付決定	4	4	件
・市内中小企業者に対する脱炭素経営支援	交付決定		1	件
・地球温暖化対策実行計画に関わる事業の推進				
・エコライフレポート（記録の一部フォーム化）				
・再エネ発電設備の適正立地に向けたゾーニング調査				
・クーリングシェルター設置				

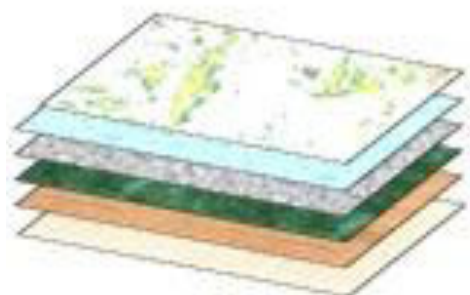
環境目標②地球環境の保全

【地球温暖化対策の推進】



参考/本市へのGX・DX産業の集積に向けたゾーニング検討業務

文献調査



ヒアリング調査



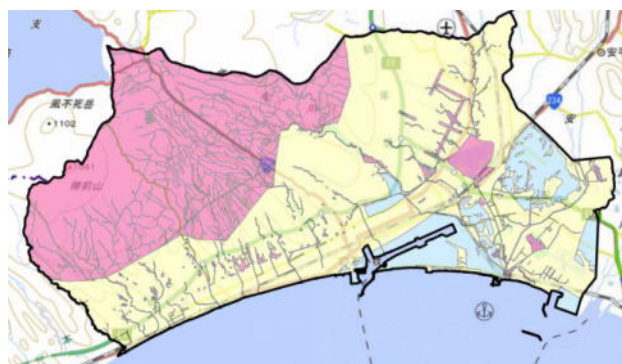
GX懇談会

▷ ゾーニングの検討を行うに当たり、多様な主体と検討の進捗等に関する情報を共有しながら、その意見等を聴取し事業に反映していくことは、再エネの導入の推進や本市へのGX・DX産業の集積のみならず、事業の透明性の確保や市民の理解に基づく再エネの導入の推進にも寄与することから、旭川市GX懇談会を設置・運営。

現地調査



ゾーニングマップ作成



マップイメージ

(出典：北海道苫小牧市)

太陽光発電適正導入支援マップ

- 促進検討エリア
- 調整エリア
- 環境保全エリア

環境目標②地球環境の保全

【地球温暖化対策の推進】



参考/クーリングシェルター

暑さ指数 (WBGT)	注意すべき 生活活動の目安	注意事項
危険 (31以上)	すべての生活活動で おこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。 外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28以上31未満)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25以上28未満)	中等度以上の生活 活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に充分に休憩を取り入れる。
注意 (25未満)	強い生活活動で おこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

出典：環境省熱中症予防情報サイト

改正気候変動適応法に基づき、以下の基準を満たした施設をクーリングシェルターとして指定
(利用可能期間は毎年6月1日～9月30日)

- 適当な**冷房設備**を有すること
- 熱中症特別警戒情報が発表された際において、解放可能日時において**無料で開放**できること
- 受入可能人数が滞在するための空間が適切に確保されていること

指定施設(R7.10月末時点)

公共施設

- 旭川市総合庁舎
- 中央図書館
- 末広図書館
- 神楽図書館
- 永山市民交流センター
- 上川総合振興局

民間施設

- 市内スーパー
- ドラッグストア
- 調剤薬局
- 家電量販店
- 郵便局 等

85ヶ所





【次年度の取組の方向性】

- 地球温暖化対策に向けた実行計画の策定と実践
- ゼロカーボン実現への意識改革・行動変容
- 省エネルギーの徹底
- 再生可能エネルギーの導入促進

(今年度の取組継続)

- ・再生可能エネルギー設備の導入支援【予算：5,000千円】
- ・地球温暖化対策実行計画に関わる事業の推進【予算：207千円】
- ・植樹業務【予算：1,001千円】
- ・クーリングシェルター設置【予算なし】

(重点的な取組)

- ・再エネ発電設備の適正立地に向けた方向性の整理【予算：80千円】



【今年度の取組状況】 ※各種実績は10月末時点

- 環境緑地保護地区やふれあいの森、嵐山など、自然とのふれあいの場の確保
 - ・台場小鳥の村ふれあいの森（旭川市台場2条3丁目/7,886㎡）
 - ・緑ヶ丘ふれあいの森（神楽岡1条7丁目/7,849㎡）上記2か所の雑草除去や、支障木剪定などの維持管理を実施



【次年度の取組の方向性】

●環境緑地保護地区やふれあいの森、嵐山など、自然とのふれあいの場の確保
(今年度の取組継続)

- ・台場小鳥の村ふれあいの森（旭川市台場2条3丁目/7,886㎡）
- ・緑ヶ丘ふれあいの森（神楽岡1条7丁目/7,849㎡）

上記2か所の雑草除去や、支障木剪定などの維持管理を実施【予算：1,158千円】



【今年度の取組状況】 ※各種実績は10月末時点

● 生息調査の継続的な実施

- ・ アライグマ：神楽公園における試行捕獲をR6より開始。R7捕獲実績 0 頭
- ・ ウチダザリガニ：市内河川において、わな設置による生息調査を実施
- ・ アカミミガメ：国の支援のもと以下の2地点で生息調査を実施
常盤公園（R6から継続。生息確認なし）
永山神社（R7より開始。1匹捕獲）
- ・ 有害性が認められる外来生物の侵入（疑い）事案への対応
ジャイアントホグウィード（バイカルハナウド）：市内における生息は確認されず
セアカゴケグモ：市内で侵入事案発生。上川総合振興局と連携し駆除の上、継続調査を実施した結果、市内における拡散は確認されず

● 協働による取組の推進

- ・ 市民参加型のアズマヒキガエル防除活動イベントを開催
開催箇所：2箇所 参加人数60人 捕獲数3匹
- ・ 市民団体との協同で市内河川においてウチダザリガニの防除体験会を実施
参加人数34人 捕獲数482匹

【生物多様性の保全】

セアカゴケグモ



【今年度の取組状況】 ※各種実績は10月末時点

●侵略的外来種の防除

- ・アズマヒキガエル：回収ボックス及び水辺侵入防止ネットの設置（66匹）
- ・アライグマ：市民向け箱わなの貸与、捕獲個体の回収、殺処分（808頭）
- ・ウチダザリガニ：企業主導による防除体験会への協力（2,615匹）

●人と野生生物の共存

・ヒグマ対策

出没確認件数：82件 捕獲数：3頭

猟友会及び警察との連携による出没対応（捕獲を含む）

DNA検査を用いた個体識別及び生息状況等調査（ヘアトラップ調査等）

電気柵等による河川敷における市街地侵入抑制対策

緊急銃猟制度施行に伴う実施訓練の実施

・カラス対策

営巣、威嚇・攻撃に関する相談 68件

上記のうち、委託業者及び市職員が対応を行った件数 62件

※対応内容：原因物（巣、卵及び幼鳥）の搜索及び除去

環境目標③自然環境の保全 【生物多様性の保全】

「特定外来生物」

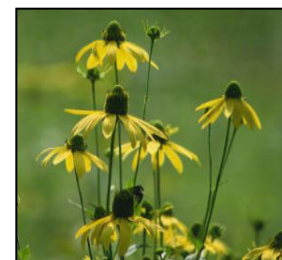
海外起源の外来種で生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす、その恐れがあるものの中から指定。



アライグマ



ウチダザリガニ



オオハンゴンソウ



セイヨウオオマルハナバチ

「北海道の指定外来種」

北海道に元々生息していない国内外来種で、北海道の生態系に著しい影響を及ぼす可能性があるとして指定。



アズマヒキガエル



アズマヒキガエル

「条件付特定外来生物」

「特定外来生物」の一部を当分の間、適用除外とする生物の通称。令和5年6月よりアカミミガメとアメリカザリガニが指定。※捕獲・飼育・無償譲渡」は規制対象外、「放出」、「販売・頒布・購入」は規制対象。



アカミミガメ

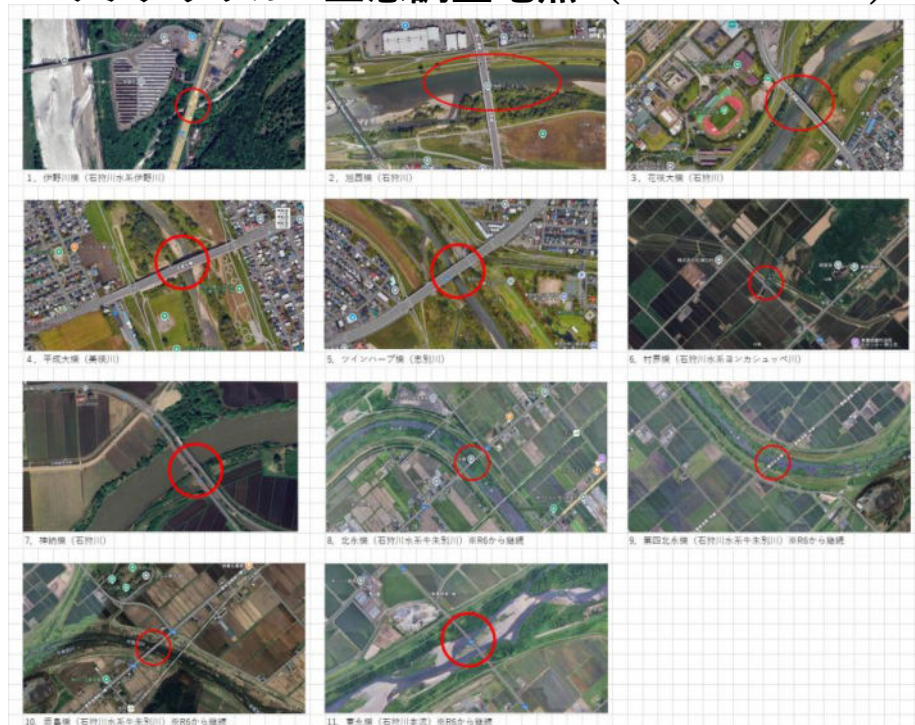
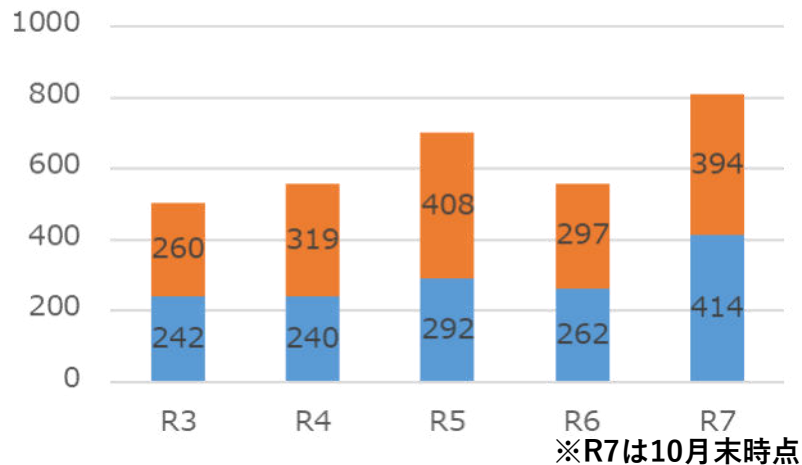


アメリカザリガニ

【生物多様性の保全】



ウチダザリガニ生息調査地点 (R7.6～R7.10)



アズマヒキガエル対策

 <h1>アズマヒキガエル</h1> <h2>捕獲体験学習会</h2> 	
主催：旭川市 共催：上川総合振興局	
北彩都ガーデン 4月25日（金）	
5月 9日（日）	※満席あり
5月 10日（土）	※満席あり
東部中央公園 4月26日（土）	
神楽岡公園 5月16日（金）	
<p>※会場が一定数に達しない場合は中止（雨天、地震等）により中止する 場合、会場ともご連絡いたします。</p> <p>時 間 5月：5月10日 9:00~21:00（満席あり） その他の日付 19:30~21:00</p> <p>講演講師 北海道教育大学旭川校 准教授 奥寺 繁 氏</p>	
付 属 品 参加費 無料	持ち物 筆記用紙、筆記用具、飲み物、タオル、4〜5人組
集合場所	旭川市立 神楽岡公園、東部中央公園、北彩都ガーデン、パーキングセンター 東部中央公園、公園駐車場（バスコースト近く）
参加申し込み	各日々よりまで（先着順）
内 容	アズマヒキガエルの捕獲（講師ありの場合） 中心でアズマヒキガエルの講義
申込方法	申込フォームから申し込み 詳細は 下記ホームページを参照
問 合	旭川市環境政策課 0166-25-5330



アズマヒキガエル 産卵防止ネット設置中



指定外来種アズマヒキガエルの
繁殖抑制のため、産卵防止ネット
を6月ごろまで設置しています。

旭川市環境部環境総務課
0166-25-5350



【次年度の取組の方向性】

● 生息調査の継続的な実施

(今年度の取組継続)

- ・ アライグマ：捕獲状況等を踏まえ、調査地域、手法を検討
- ・ ウチダザリガニ及びアカミミガメ：引き続き生息調査を実施

● 協働による取組の推進

● 侵略的外来種の防除

(今年度の取組継続)

- ・ アライグマ：市民向け箱わなの貸与 【予算：7,800千円】
- ・ アズマヒキガエル及びウチダザリガニ
市民参加型イベントの実施。回収ボックスやネットによる捕獲
【予算：1,147千円】



【次年度の取組の方向性】

●人と野生生物の共存

(今年度の取組継続)

- ・ 猟友会、警察との連携による出没等への対応 【予算：2,213千円】
- ・ DNA分析による個体識別を活用した生息等状況調査 【予算：10,187千円】
- ・ 市街地侵入抑制を目的とした主に河川敷における対策（電気柵、草刈り等）
【予算：5,322千円】
- ・ 春期管理捕獲の実施 【予算：1,148千円】
- ・ 繁殖期におけるカラス通報、相談への対応 【予算：961千円】

(重点的な取組)

- ・ 緊急銃猟の実施に向けた体制の整備 【予算：2,114千円】

環境目標③自然環境の保全 【生物多様性の保全】



【ヒグマ対策】DNA分析を活用した個体識別・生息状況調査

方法	採取検体	内容	目的
ヘアトラップ	体毛	ヘアトラップ（有刺鉄線を巻き、誘因物を塗布した丸太）を設置し、ヒグマの背擦り習性を誘発することで、体毛を採取。	ヒグマが生息している場所や、移動経路と疑われる場所（主に緩衝地帯）に設置し、個体の特定や生息数などの把握を行う。
出没現場	糞・体毛	出没現場に残された糞・体毛を採取。	糞の内容物や被害状況、目撃時の公道などから判定された個体の有害性と個体識別情報を紐付けることにより、有害個体の把握を行う。
捕獲個体	肝臓・体毛	捕獲した個体から肝臓・体毛を採取。	捕獲・駆除された個体とすでに把握されている個体情報の突合。



環境目標③自然環境の保全 【生物多様性の保全】



【ヒグマ対策】河川敷における市街地侵入抑制対策

対策方法	対策内容
電気柵	電気柵を設置し、ヒグマの侵入を防止する。
ネットフェンス	河ネットフェンスを設置。ヒグマの侵入を感知するとともに、移動方向を把握する。
草刈り	草刈りにより、ヒグマが嫌がるとされる「見通しの良い空間」をつくることで、侵入を抑制する。
石灰散布	石灰を散布し、ヒグマの足跡を残りやすくすることで、侵入感知や移動方向の把握を行う。
センサーカメラ	電気柵やネットフェンスとともに設置し、ヒグマの侵入監視を行う。撮影画像はAIで分析され、ヒグマと判断された場合には通知がくる。



◆緊急銃猟について（環境省資料抜粋）

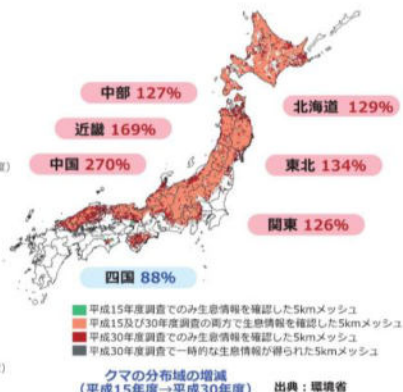
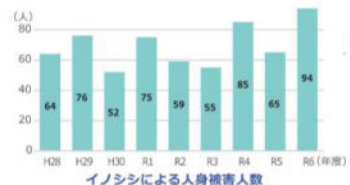
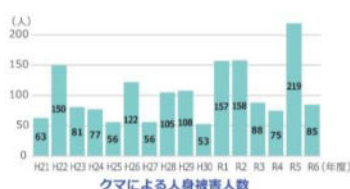
緊急銃猟制度ってなに

人の日常生活圏にクマやイノシシが出没した場合、一定の条件を満たしたときに、市町村長の判断により銃器を使用した捕獲等ができる制度です。



なぜ緊急銃猟制度が必要なの？

近年、クマやイノシシの人の日常生活圏への出没が増加傾向にあり、人身被害件数・人数がクマでは令和5年度、イノシシでは令和6年度に過去最多*1を記録。死亡事故も発生しています。 *1 クマは平成18年度、イノシシは平成28年度以降



住居集積地域等での銃器を使用した鳥獣の捕獲等は現に危険が生じていて急を要する場合に実施されてきました。しかし、膠着状態にある場合等において、より予防的かつ迅速に対処することが必要になっています。

これらに対応するために、特に人身被害を生じさせるおそれの高いクマ、イノシシについて、人の日常生活圏での銃猟を可能とするものとして制度が創設されました。

なお、緊急銃猟実施時の通行禁止・制限に正当な理由なく従わない場合、罰則の対象となる場合があります。



緊急銃猟を実施するための4つの条件

- 1 クマやイノシシが人の日常生活圏に侵入していること
※侵入するおそれ大きいことを含む。
- 2 クマやイノシシによる人命または身体への危害を防止するため、緊急に対応が必要であること
- 3 銃猟以外の方法では的確かつ迅速な捕獲等が困難であること
- 4 住民や第三者に銃猟による危害を及ぼすおそれがないこと

緊急銃猟制度のしくみ

「緊急銃猟を実施するための4つの条件」全てを満たした場合、市町村長は、市町村職員に指示または職員以外の者へ委託*2し、対象のクマ、イノシシについて、銃器により捕獲等を行うことが可能です。

*2 職員以外の者へ委託・・・大型獣の銃器での捕獲等に関する知識と経験があり、射撃練習も定期的に行っている人材に、市町村長が委託することができます。

緊急銃猟は、人の日常生活圏(例：住居や広場、生活用道路、商業施設、農地その他の勤務地)などにおいて、安全が確保された場合に実施されます。



環境目標⑤生活環境の保全【大気、水などの生活環境の保全】



【今年度の取組状況】 ※各種実績は10月末時点

●さわやかな大気の保全

- ・大気汚染の測定：6項目中5項目は基準以下
- ・光化学オキシダント：2地点ともに複数回環境基準を超過
- ・工場・事業場・解体現場の立入検査：特定粉じん排出届出／立入検査＝13件／20回
- ・ばい煙発生施設設置事業所への立入検査：12月以降50件程度実施予定

●清らかで豊かな水の保全

- ・公共用水域の水質測定：市内河川10地点で実施
生活環境項目(BOD)は降雨の影響で6,7月複数地点で環境基準超過。健康項目は達成
- ・工場・事業場への立入検査：指導件数／立入事業場数＝1件/27事業場
- ・油流出事故への対応：34件

●騒音、振動、悪臭防止対策

- ・一般地域環境騒音：3地点、交通騒音：25地点、振動：6地点
- ・悪臭：3事業所で実施。そのうち1事業所で規制基準超過したが、指導後に改善済

環境目標⑤生活環境の保全【大気、水などの生活環境の保全】



			基準値 H26	実績値 R1	第1期 目標値R1	実績値 R6	第2期 目標値R6	実績値 R7※10月 末時点	最終 目標値 R9
環境基準達成度 (全14項目)	大気環境基準	二酸化硫黄(SO ₂)	○	○	○	○	○	○	○
		二酸化窒素(NO ₂)	○	○	○	○	○	○	○
		一酸化炭素(CO)	○	○	○	○	○	○	○
		光化学オキシダント(Ox)	×	×	○	×	○	×	○
		浮遊粒子状物質(SPM)	○	○	○	○	○	○	○
		微小粒子状物質(PM2.5)	×	○	○	○	○	○	○
	水質環境基準	生物化学的酸素要求量(BOD)	○	○	○	○	○	○	○
		人の健康の保護に関する項目	○	○	○	○	○	○	○
	一般環境騒音	騒音	○	○	○	○	○	○	○
	ダイオキシン類	大気	○	○	○	○	○	○	○
		公共用水域(水質)	○	○	○	○	○	○	○
		公共用水域(底質)	○	○	○	○	○	○	○
		地下水	×	○	○	○	○	○	○
		土壌	○	○	○	○	○	○	○

環境目標⑤生活環境の保全【大気、水などの生活環境の保全】



【今年度の取組状況】 ※各種実績は10月末時点

●健全な土壌の保全

- ・土壌汚染が判明した土地については、状況に応じた指導・対応を継続中

●化学物質による環境汚染の防止

- ・高濃度P C B廃棄物保管事業者に、処理施設稼働終了(R8.3.31)前の適正処理を指導
→全ての事業者において処理のための手続きが完了
- ・低濃度P C B廃棄物適正処理について、環境省資料や市HP等を用いた普及啓発



【次年度の取組の方向性】

●さわやかな大気の保全

(今年度の取組継続)

- ・大気汚染常時監視を実施

【予算：機器リース6,928千円 保守点検14,886千円】

- ・有害大気・ダイオキシン類調査委託【予算：4,745千円】
- ・大気中石綿分析業務【予算：583千円】

●清らかで豊かな水の保全

(今年度の取組継続)

- ・公共用水域水質測定【予算：3,370千円】
- ・工場排水分析【予算：1,127千円】
- ・地下水分析【予算：854千円】
- ・ゴルフ場に係る農薬分析【予算：728千円】



【次年度の取組の方向性】

●騒音、振動、悪臭防止対策

(今年度の取組継続)

- ・面的評価システム 【予算：792千円】
- ・悪臭測定 【予算：929千円】

●健全な土壌の保全

(今年度の取組継続)

- ・土壌汚染が判明した土地については、状況に応じた指導 【予算なし】

●化学物質による環境汚染の防止

(今年度の取組継続)

- ・低濃度P C B廃棄物の適正処理
⇒法令の処分期間が令和9年3月31日であるため、期日までの処分に向け、指導
- ・監視の継続と市HP等による適正処理に向けた普及啓発 【予算なし】

低濃度PCB廃棄物の処分期間



！ あなたの作業場や倉庫は大丈夫？

低濃度PCB廃棄物

作業場や倉庫に使用または保管されている古い電気機器に低濃度PCBが残っているかもしれません。
PCB廃棄物は処分期間内の処分が必要です。

いますぐ確認をお願いいたします。

まずは、現在お使いの古い電気機器をご確認ください！

変圧器

コンデンサー

低濃度PCB廃棄物の例

低圧コンデンサー

お急ぎください！

低濃度PCB廃棄物の処分期間

令和9年(2027年)3月31日まで

詳しくは手引きをご活用ください

PCB廃棄物を処分する必要性

1 現在は製造・輸入ともに禁止

PCBとはPoly Chlorinated Biphenyl(ポリ塩化ビフェニル)の略称で、人工的に作られた、主に油状の化学物質です。PCBの特徴として、水に溶けにくく、沸点が高い、熱で分解しにくい、不燃性、電気絶縁性が高いなど、化学的にも安定な性質を有することから、電気機器の熱線油、熱交換器の熱媒体、ノンカーボン紙など様々な用途で利用されてきましたが、現在は製造・輸入ともに禁止されています。

3 意外なところに隠れている

計器用変成器、リアクトル、放電コイル、電圧調整器、整流器、開閉器、遮断器、中性点接地器、避雷器及びOFケーブルなどにも含まれている可能性があります。

2 人体に悪影響がでる可能性あり

脂肪に溶けやすいという性質から、慢性的な摂取により体内に徐々に蓄積し、様々な症状を引き起こすことが報告されています。症状は、吹き出物、色素沈着、目やになどの皮膚症状のほか、全身倦怠感、しびれ感、食欲不振など多岐です。

吹き出物

目やに

しびれ

倦怠感

色素沈着

食欲不振

保管及び処分の状況の届出

事業者は、令和9年3月31日までに、PCB廃棄物を自ら処分するか、若しくは処分を他人に委託しなければなりません。なお、環境大臣又は都道府県知事(政令で定める市にあっては市長)は、事業者が上記期間内の処分に違反した場合には、その事業者に対し、期限を定めて、PCB廃棄物の処分など必要な措置を講ずべきことを命ずることができます。

STEP 1 調査

技術者等に依頼し、キュービクル、分電盤などを調査します。

STEP 2 判別

調査情報から判別、または採油した熱線油のPCB濃度を調査します。

STEP 3 処分

無害化処理事業者への処理委託を行い、処分してください。

処分までの流れ

低濃度PCB廃棄物の処分期間 **令和9年(2027年)3月31日まで**

低濃度PCB廃棄物早期処理情報サイト

<http://pcbs.mekaden.com.jp/technology/>



【今年年度の取組状況】 ※各種実績は10月末時点

- 環境学習の推進
 - ・ みんなで学ぼう！あさひかわ環境フェスタの開催（来場者数：972人）
- 市民運動や環境学習活動の核となる人材の育成
 - ・ 環境アドバイザーの派遣（20件）
- 市民団体などの自発的な環境保全活動の促進
 - ・ あさひかわ自然共生ネットワークによる市民団体相互の連携，活動の充実（緑の回廊展の開催（6月）、情報誌「みどりの回廊」の発行（5月））
- 環境情報の提供
 - ・ ホームページ等を活用したヒグマの出没情報等の発信（随時）
 - ・ 旭川市環境白書の発行（11月）
- 市政への市民参加と意見反映
 - ・ 環境審議会等による市民参加を図り、意見反映の場の創出（開催回数 環境審議会 2回 廃棄物減量等推進審議会 2回）
※開催回数は今回分も含む



【次年度の取組の方向性】

- 環境学習の推進
- 市民運動や環境学習活動の核となる人材の育成
- 市民団体などの自発的な環境保全活動の促進
- 環境情報の提供
- 市政への市民参加と意見反映
(今年度の取組継続)
 - ・ 各種イベントによる普及啓発事業の実施
 - ・ アドバイザー派遣や講習会等による人材育成
 - ・ HP、広報誌やセミナーなど、様々は方法による情報提供
 - ・ 各種付属機関及び意見提出手続き等による、環境行政への市民参加の場の創出